

連載

23 在宅医療奮闘記

平成7年より
在宅を開始した

私の思い出

(医)東西会 千舟町クリニック院長
橋本 満義 (63歳・内科)

故郷からの患者さん



最近の国策で、福祉施設へ入所される患者さんが増えてきています。その施設のタイプも「グループホーム」「有料老人ホーム」「サービス付き高齢者向け住宅」「ショートステイ」「特別養護老人ホーム」「入院長期療養型(介護・医療)」など多種多様です。

今回の患者さんは、84歳の女性(心臓カテーテルとステント手術そして慢性肺疾患)で、心肺機能低下のため寝たきり状態。以前は南予で独居生活をされていたのですが、松山市のある施設に入所され、当院で在宅医療を開始することになりました。初診の日、長女の方とお会いしましたが、さすが南予出身の女性らしく、優しく微笑んでいらっしゃいました。患者さんは病状も重く、また、松山は初めてらしくやや緊張されていました。ですが、

院長である私と同郷であることを知ると、ほっとされたのでしょうか。お顔がみるみるうちに安堵された表情に変わったのです。

「あの酒屋さんの前に川がありますよね。わかりますか?」

「酒屋さんはわかります」

「その川に架かる橋を渡り、突き当たりを右に、そして左に進んだところが実家です。私の祖父は米作・果樹農家で父は県職員でしたよ。私の実家は1区であなたの家は2区だから近いですね」

「ああ、そうやったん。わかりますよ」

「今後もよろしくね。一生懸命ご相談にのりますから」

その後、心肺機能低下により在宅酸素の使用となりました。夜間不安神経症状、不眠症により、安定剤は副作用があるため中止し、漢方薬「酸棗仁湯

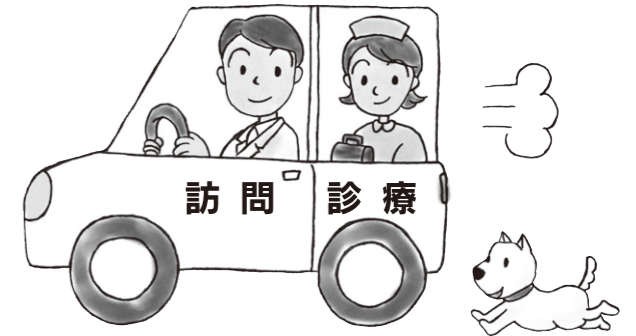
(さんそうにんとう)」が著効しました。

このように、病気に対しての生活管理はできます。しかし、「病は気から」のごとくです。患者さん本人に対しては、故郷の思い出話などしながら、今後の人生後半の大切な時間を、充実したものになるようお手伝いしていきたいと思っています。

現在、国策にて、長期入院ではなく在宅医療でクオリティオブライフ(人生の質)を満たそうとしています。ですから、いろいろなタイプの介護福祉施設ができ、その選択の幅が広がっています。

そして、医師(医療機関)がそれをサポートするための、医療福祉環境のグランドデザインが構築されているのです。

「お医者さんが来てくれる」
質の高い在宅医療・看護・介護
を『千舟町クリニック』は目指しています。



機能強化型・有床 在宅療養支援診療所

(医)東西会 千舟町クリニック

松山市千舟町6-4-9 Tel:089-933-3788

<http://www.touzaikai.jp/>